

(平 三十 国グ後)

小論文

- ・問題は1～6ページである。
- ・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意 解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文 二〇〇点

次の文章を読んで、あとの問一～三に答えなさい。

バイオポリティクス(生政治)という言葉は、強力なイメージ喚起力を持つ用語として、現代社会における支配や権力関係をいあらわすために、フーコー^注以外にもしばしば使われている。もともと単純に、ギリシャ語での生命や生活をあらわす(バイオと政治や政治学をあらわす(ポリティクス)という二つの言葉の組み合わせというところから、バイオポリティクスという用語の指し示す意味の広がりを探ろう。

バイオポリティクスという言葉がこんにちの社会のある一面をうまくとらえていると感じさせる背景の一つは、一九七〇年代以降のバイオテクノロジーとして総称されるような科学技術の出現にあるだろう。西欧での産業革命に始まる近代における産業化は、巨大な(工学的)科学技術と結びつくことで、人間の外的自然としての環境と人間との関わりを激変させた。化石燃料を大規模に使用する近代的大工業の発展は、人間の自然に対する支配力を飛躍的に拡大したというプラス面と同時に、地球温暖化などの環境問題というマイナス面を生み出していることはよく知られている。

さて、現状では、こうした科学技術が、外的自然だけでなく、バイオテクノロジーへと変容して生命をも対象とすることによって、^(ア)従来とは質的に異なった問題が生まれつつある。なぜなら、近代の生物学の観点からみれば、人間はもはや科学技術によって自然を支配することを許された神の似姿ではなく、生物の一種に過ぎない生物学的存在だからだ。したがって、バイオテクノロジーで農作物や家畜に用いられた遺伝子改変技術は、原理的な変更を加えることなく、同じ生命である人間自身に対して用いることが可能である。

そのため、人間自体を対象とする生物医学的知識とそれに基づくさまざまな技術を利用した産業化の進展は、このバイオテクノロジーという新しい水準においては、ブーメランのように人間自身へと再帰的に戻ってくることになった。そして、人間の内的自然としての「身体」は、その技術が働きかける焦点となることによって、さまざまな形で問題化されつつある。

その一つの例は、こんにちの近代生物医学による身体への介入はたんなる病気の治療にとどまらないものとなっているという点

だ。病気の治療だけではなく、その予防が目的とされることによって、現時点では健康な状態であっても、遺伝子診断によって病気になる可能性がチェックされたり、食生活や運動などの生活習慣の改善として医療の対象とされたりする場合がある。こうして、遺伝子のレベルでも生活というレベルでも、身体への介入が拡大していくとともに、身体という自然は、外的環境としての自然と同様に、技術的コントロールの対象として位置づけられることになったのである。その極限として、人間の身体は、神の似姿どころか、近代的な権利主体としての人格の担い手としての特権的な地位からまでも滑り落ちる事態がもたらされた。身体はバイオテクノロジーをはじめとする技術の対象となるだけではなく、身体の一部である遺伝子については、バイオ産業における生産手段として、私的所有の対象とまでなっている。だが、微生物や動植物やヒトの遺伝子を特許化して、知的所有権の対象とすることが許されるかどうかの正統性をめぐる論争は国際的に広がっており、必ずしも私的所有の全面化に向けた一方通行の流れとなっているわけではない。こうした特許化に対して批判的な人々は、これを「バイオパライシー(生物学的海賊行為)」と呼んで批判している。

遺伝子をめぐる問題はもちろんだが、「先端医療」と呼ばれる領域は一般的に、生命の始まりに関わる生殖技術、生命の終わりに関わる「脳死」やターミナル・ケアなどのように、さまざまな価値観の間での紛争が生じる政治的・倫理的空間となっている。生物学的な意味でのバイオが、政治学的・経済学的な領域のなかの一つのトピックとなりつつあるという事態は、バイオポリティクスという言葉で現在のものとしている状況の一つなのだ。

(中略)

バイオポリティクスという問題設定の現在性を際立たせているもう一つの背景は、同じ時期に生じた変化、つまり政治という言葉の指す意味の拡大である。政治とは古典的には、暴力の独占者としての国家と結びつけられた領域として定義されてきた。たとえば、マックス・ウェーバーは、「われわれにとって政治とは、国家相互の間であれ、あるいは国家の枠の中で、つまり国家に含まれた人間集団相互の間でおこなわれる場合であれ、要するに権力の分け前にあずかり、権力の配分関係に影響を及ぼそうとする努力である」として、政治を定義している。だが、この古典的な定義に対して、こんにちの「政治的」問題として前景化しているの

は、しばしば(暴力としての)国家権力とは少なくとも直接的には結びつかない、より社会全体に拡散したタイプのネットワーク的な権力関係やミクロでの支配関係である。それは、たとえば、フェミニズムやゲイ・レズビアン解放運動(より広い意味ではクィア・ポリティクスとも呼ばれる)においては、ジェンダーにそって構造化された支配関係や強制異性愛制度が、権力として批判の対象とされていることにあらわれている。また、エスニック・マイノリティの運動あるいは環境問題を取り上げたエコロジー運動の場合も、必ずしも国家権力を掌握するということが唯一の目標となるわけではない。そこで問われている「政治」とは、むしろ人種主義やナショナリズムのはらんでいる文化的な差別構造や消費社会の価値観に対する批判とでもいえるべきものだろう。こうした問題提起は、とりわけ一九六〇年代以降に先進諸国を中心に活発になり、「新しい社会運動」と呼ばれることもある。

これらの「新しい社会運動」を、社会学者のアルベルト・メルツは『現在に生きるノマド 新しい公共空間の創出に向けて』において、未来の(狭義の)政治的課題を実現するための運動ではなく、現在の運動という過程そのものに価値を置く社会運動として特徴づけている。いいかえれば、経済的再配分や何らかの目標に向けた政治的動員ではなく、集合的主体性の表出としての文化や表象や意味の領域に関わる運動であるということだ。

それらの運動の幅広い関心領域をあえて一言でまとめるならば、ライフスタイルとしての「生(バイオ)」をめぐる文化的・社会的な諸問題を「政治(ポリティクス)」として定義し直すことと特徴づけられる。この視点から再考してみるならば、新しい社会運動における「政治」の再定義をもっとも象徴的に示しているのはフェミニズム運動の変容ではないか。女性参政権を最大の課題として、女性に市民権を保障することを目標としていた第一波フェミニズムとは一線を画して、「私的なことは政治的である」というスローガンを掲げた第二波フェミニズムは、男女のジェンダー差別を支配関係の原型とみなす観点を積極的に主張した点に特徴があった。そうすることで、従来は公私の区分のうちの私的領域とされていた家族のなかにある家父長制という男女間の権力関係を政治的なものとして問題化したのである。そのことは、公私の区別を超えた社会的な(生)のあり方自体に再考をせまる営みとなり、フェミニズムは、近代社会が自明の前提としていた価値観の根底的な地平を問いかける運動として大きな社会的影響力を持ち得たのだ。政治的なものの領域が再定義されることによって、生物学的な意味での生命としてのバイオだけではなく、人間学的な意

いた。とりわけ医療をめぐるでは、医療をより多くの人々に提供するという福祉国家の理念は、医療専門家に人々を従属させ、社会的な諸問題を画一的に医療の名の下に覆い隠してしまう「医療化」であるとして根底的に異議申し立てを受けた場合さえもある。精神病の存在を精神医学によって作られた「神話」として否定し、精神医療を医療の名をかたった（裁判のない）監禁として批判した一部の「反精神医学」と総称された社会運動は、その極限的な例だろう。また、最初に取り上げた意味でのバイオポリティクスすなわち、バイオテクノロジーの急激な進歩（暴走）や遺伝子などの商品化に対する批判や懸念の多くは、医療専門職支配や環境破壊に対する批判的意識と密接に関連している。だが、「新しい社会運動」が必ずしも、バイオテクノロジーに対して批判的態度を取るとは限らないこともまた忘れてはならない。たとえば、フェミニズム運動の一部は、生殖技術を利用した生命の再生産が行われることを、妊娠と出産という労苦から女を解放する可能性のある技術的進歩として、あるいはレズビアンのカップルによる子産みを可能とする技術として、肯定的に歓迎している。

出典…美馬達哉『生を治める術としての近代医療——フーコー『監獄の誕生』を読み直す』（現代書館、二〇一五年）。
（ただし、本文の一部に改変および省略がある。出題者注を新たに付した。）

注

フーコー——フランスの哲学者ミシェル・フーコー（一九二六—一九八四年）。

問一 傍線部(ア)「従来とは質的に異なった問題」とは、どのような「問題」なのか。筆者の考えを二〇〇字以内で説明しなさい。
(配点三〇点)

問二 傍線部(イ)「私的なことは政治的である」とあるが、新しい社会運動全般のなかで、このスローガンはいかにして共感されるにいったったのか。「政治」という言葉の意味の拡大をふまえたうえで、四〇〇字以内で説明しなさい。(配点五〇点)

問三 本文の内容をふまえたうえで、科学技術の発展が国家、社会運動、わたしたちの日常生活にあたえる影響について、具体的な事例をあげながら、一〇〇〇字以内で論じなさい。(配点二二〇点)